

分担金・拠出金の名称	人間の安全保障基金拠出金	評価	B
拠出先の国際機関名	国連事務局		
国際機関の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本基金は平成10年12月、ハノイでの政策演説における小渕総理(当時)の提唱により、我が国より約5億円を拠出して設置。 ・現在の国際社会が直面する貧困・環境破壊・紛争・地雷・難民問題・麻薬・感染症等の諸問題に効果的に対処するために多様な脅威に取り組む国連関係国際機関が実施するプロジェクトを支援。これらの支援を通じ、実施機関の活動の中に人間の安全保障の考え方を反映させ、実際に人間の生存・生活・尊厳を確保していくことを目的とする。 ・我が国が人間の安全保障概念の普及を推進するにあたり中心的役割を果たすもの。 		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況	
<p>1. (1) 成果目標: (重要外交課題遂行上の有用性)国際機関内における人間の安全保障概念の主流化</p> <p>活動指標: 各国際機関国事務所及びプロジェクトから国連人間の安全保障基金に対する支援要請件数。</p>		<p>・我が国が外交の柱として位置づけている人間の安全保障の推進を一つの支援スキームとして体現する唯一の基金。</p> <p>・平成24年に人間の安全保障に関する国連総会決議が採択され、国際機関から同基金に対する支援申請件数は飛躍的に増加(平成22年度以前は20件前後で推移。支援申請国際機関のべ数では、平成23年度75機関、24年度201機関、25年度121機関が申請)。また、平成25年5月には潘基文国連事務総長他の出席を得て、国連で人間の安全保障に関するハイレベルイベントが開催されるなど、人間の安全保障概念の主流化が進められている。</p>	
<p>(2) 成果目標: 国連人間の安全保障基金の意思決定における我が国のプレゼンスが確保される</p> <p>活動指標: 人間の安全保障諮問委員会への参加。国連人間の安全保障ユニットとの定期的協議。</p>		<p>我が国が主導して設置した基金であり、また人間の安全保障諮問委員会の委員を邦人(一人は外務省の担当課長)が務めることもあり、制度上、我が国の意思を表明する機会は担保されている。また、様々な機会を捉えて対話を行い、我が国の意見を人間の安全保障基金の事業に反映させている。</p>	
<p>(3) 成果目標: 人間の安全保障基金が適切な組織・財政マネジメントを行う</p> <p>活動指標: 国連人間の安全保障基金の組織・財政マネジメント向上努力</p>		<p>国連において、2014年4月の事務総長書簡に基づき、人間の安全保障ユニットの事務総長室への移管が決定し、人間の安全保障の主流化に向けた同基金の一層の活用が見込まれ、我が国としてもその大きな方向性を支持している。</p> <p>また、同基金については、限られた予算の中でより効果の高いプロジェクトを実施するために、(1)他の資金スキームとの連携による経費の削減、(2)他の組織が実施したアセスメントを利用した案件形成により経費の削減、(3)よりパイロット的なプロジェクトへの重点的な支援の実施などに努めている。</p>	
<p>(4) 成果目標: 機関等における邦人職員数</p> <p>活動指標: 邦人職員の採用</p>		<p>高須国連管理局長が人間の安全保障事務総長特別顧問を兼務。また、人間の安全保障ユニットの邦人職員率は17%(職員6名中、邦人職員は1名。2014年末時点)。同ユニットは邦人採用に積極的な姿勢を示しており、我が国としても今後も邦人職員送りこみに努めていく。</p>	
2. PDCAサイクルの確保		<p>①計画段階: 人間の安全保障諮問委員会で、基金の事業の方向性について協議。申請された個別事業に対して、国連事務総長室にある人間の安全保障ユニットが審査。承認された案件につき、我が国に通報し情報共有。②実施段階: 国連人間の安全保障基金は、各国連機関に拠出。各機関が案件実施。③評価段階: 各国連機関は、事業運営委員会や中間報告書の作成等を通じ進捗状況を確認。中間報告書は、人間の安全保障ユニットに提出。必要に応じて、在外公館は事業の進捗状況を確認する。④フォローアップ: 各国連機関が参加する運営委員会の場を通じて、問題点や改善点を検討。必要に応じて、在外公館は事業運営委員会に参加し申し入れ。</p>	
担当課・室名	国際協力局 地球規模課題総括課		